

16 ダビデのミクタム

16:1 神よ。私をお守りください。私は、あなたに身を避けます。  
 16:2 私は、主に申し上げました。「あなたこそ、私の主。私の幸いは、あなたのほかにはありません。」  
 16:3 地にある聖徒たちには威厳があり、私の喜びはすべて、彼らの中にあります。  
 16:4 ほかの神へ走った者の痛みは増し加わりましょう。私は、彼らの注ぐ血の酒を注がず、その名を口に唱えません。  
 16:5 主は、私へのゆずりの地所、また私への杯です。あなたは、私の受ける分を、堅く保ってくださいます。  
 16:6 測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ。  
 16:7 私は助言を下さった主をほめたたえる。まことに、夜になると、私の心が私に教える。  
 16:8 私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。  
 16:9 それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでる。私の身もまた安らかに住まおう。  
 16:10 まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。  
 16:11 あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。

主に身を避ける者の生き方です。苦難の中にあつ



ても、このような信仰で生きるなら、「楽しみがとこしえに」あるのです。  
 聖徒の交わりは、信仰が中心で、それが楽しいものとなるのです。それはこの世のどんな力にもまさるので、威厳となります。  
 他の神に走った者、すなわし神様への信仰を捨てて行った人は、そのときは良いように見えても「苦しみが増し」加わるという結果になってしまいます。ですから、そのような生き方に加担して、「血の酒を注ぐ」ようなことはしないというのが、作者の決心です。  
 そのような人は、結局主の祝福にあずかり、「測り綱は私の好むところに」落ちる、すなわち主にお任せしても、主は最善にしてくださいということです。  
 主を前に置きましょう。つまり主を意識的にいつもしっかりと見据えながら、主の方へと前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

